

入賞者一覧

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

岩見沢市立光陵中学校 3年 大裕 晴正

《特別賞 北海道立文学館賞》

札幌市立円山小学校 6年 矢野 七雨

《特別賞 北海道歌人会賞》

北海道釧路商業高等学校 2年 只野 結

《特別賞 北海道新聞社賞》

岩内町立岩内西小学校 3年 町 彩音

《優秀賞》

旭川市立豊岡小学校 2年 鎌田 湊士

札幌市立西園小学校 1年 廣部 琴

札幌市立琴似小学校 6年 遠田 真緒

札幌市立寒西小学校 4年 今野 充翔

小樽市立松ヶ枝中学校 2年 吉田名菜花

音更町立緑南中学校 2年 三井田莉子

帯広北高等学校 2年 池内 幹太

北海道小樽未来創造高等学校 2年 宮島 朱音

《佳作》

旭川市立豊岡小学校 2年 今野 蓮斗

網走市立網走小学校 1年 吉田 美里

北広島市立東部小学校 1年 多門 花佳

札幌市立澄川南小学校 3年 宮森 佑輝

釧路市立清明小学校 6年 加藤 瑠月

別海町立別海中央小学校 4年 古里 絵鈴

室蘭市立みなと小学校 6年 磯部 光希

札幌市立平岸中学校 2年 服部 健吾

千歳市立千歳中学校 2年 奥村 拓世

千歳市立千歳中学校 2年 本間ゆり子

北海道教育大学附属旭川中学校 3年 上野 未悠

北海道函館聾学校 中学部 1年 山田リノア

北海道小樽未来創造高等学校 3年 今野 渚

北海道釧路商業高等学校 1年 比内 月菜

北海道札幌工業高等学校 3年 堤 友里

《入選》

旭川市立豊岡小学校 2年 斉藤 僚琉

岩内町立岩内西小学校 3年 川本 月緋

岩内町立岩内西小学校 3年 木森 百花

岩内町立岩内西小学校 3年 森 太偉俄

札幌市立澄川南小学校 3年 大野壮太郎

札幌市立澄川南小学校 3年 久保いろは

札幌市立澄川南小学校 3年 安田 和史

札幌市立西園小学校 3年 富樫梨衣沙

札幌市立藤の沢小学校 2年 陣内 結子

北海道教育大学附属札幌小学校 3年 鈴木 千智

小樽市立奥沢小学校 4年 伊吹 梓

小樽市立奥沢小学校 4年 岩戸 美織

札幌市立幌南小学校 6年 鈴木 音彩

札幌市立幌南小学校 6年 中 季子

札幌市立幌南小学校 6年 和田 詩織

札幌市立幌北小学校 4年 間島 仁子

札幌市立幌北小学校 4年 松永 小瑠

札幌市立札幌北小学校 4年 佐藤 穂和

札幌市立札幌北小学校 4年 水木昊士朗

札幌市立篠路小学校 6年 家崎 花鈴

札幌市立篠路小学校 6年 櫻岡 春音

札幌市立澄川南小学校 4年 三上 惺之

札幌市立福移小学校 4年 新倉 咲音

札幌市立藤の沢小学校 6年 細田 梨央

札幌市立元町小学校 5年 尾崎 雄大

札幌市立米里小学校 5年 尾高 佑宇

中頓別町立中頓別小学校 4年 佐藤こはく

旭川市立桜岡中学校 2年 佐藤 栗那

旭川市立緑が丘中学校 2年 上村 南惺

小樽市立北陵中学校 2年 田村 裕音

上富良野町立上富良野中学校 2年 稲宮 勇

釧路市立共栄中学校 2年 長谷川 葉

札幌市立青葉中学校 2年 澤田 葵

札幌市立北野中学校 2年 椿原 春香

札幌市立琴似中学校 1年 竹林 信

札幌市立澄川中学校 2年 林 秀二郎

札幌市立澄川中学校 2年 天野 滯

札幌市立澄川中学校	2年	田中 佑奈
札幌市立澄川中学校	2年	山田 脩平
札幌市立伏見中学校	1年	山本 果凜
札幌聖心女子学院中学校	1年	都筑 暖和
札幌日本大学中学校	1年	大場 悠貴
伊達市立光陵中学校	2年	本所くるみ
中頓別町立中頓別中学校	2年	宗像 晃大
七飯町立七飯中学校	2年	石岡 峻和
仁木町立仁木中学校	2年	久保 日和
登別市立鷺別中学校	2年	江利川由菜
函館市立亀田中学校	2年	大國 結愛
室蘭市立東明中学校	2年	西田 琴音
帯広北高等学校	3年	竹内 悠真
市立札幌開成中等教育学校	4年	石川 華
北星学園大学附属高等学校	2年	岡本 高弘
北海道釧路商業高等学校	1年	波平 奏歌
北海道釧路商業高等学校	1年	三谷 華生
北海道釧路商業高等学校	1年	村山 七海
北海道釧路商業高等学校	2年	神田 桃果
北海道札幌白石高等学校	2年	松谷 花果
北海道富良野高等学校	1年	池添 遥
北海道富良野高等学校	1年	木下 凜

○応募状況

応募全作品 七,五四五首

小学一～三年生の部 一八三首

小学四～六年生の部 一,三〇七首

中学生の部 四,二二七首
 高校生の部 一,八二八首

【団体応募】

小学校 三九校
 中学校 八二校
 高等学校 一三校
 特別支援学校 六校
 その他 一団体

計一四一団体

団体応募一覧

旭川市立旭川小学校／旭川市立豊岡小学校／芦別市立上芦別小学校／岩内町立岩内西小学校／岩見沢市立第一小学校／浦河町立荻伏小学校／江別市立豊幌小学校／遠軽町立白滝小学校／遠軽町立丸瀬布小学校／小樽市立奥沢小学校／小樽市立幸小学校／北見市立大正小学校／北見市立若松小学校／釧路市立朝陽小学校／釧路市立石山東小学校／釧路町立知方学小学校／札幌市立石山東小学校／札幌市立幌南小学校／札幌市立幌北小学校／札幌市立琴似小学校／札幌市立札幌北小学校／札幌市立三角山小学校／札幌市立篠路小学校／札幌市立篠路西小学校／札幌市立藤の沢小学校／札幌市立伏古小学校／札幌市立藤の沢小学校／札幌市立佐呂間町立若佐小学校／千歳市立北陽小学校／苫小牧市立錦岡小学校／中頓別町立中頓別小学校／中富良野町立旭中小学校／函館市立白尻小学校／深川市立音江小学校／北海道教育大学附属札幌小学校／室蘭市立喜門岱小学校／室蘭市立みなと小学校／愛別町立愛別中学校／旭川市立嵐山中学校／旭川市立神居中学校／旭川市立桜岡中学校／旭川市立緑が丘中学校／厚真町立厚真中学校／石狩市立樽川中学校／安平町立早来中学校／岩見沢市立北村中学校／岩見沢市立白滝向中学校／遠軽町立北川中学校／遠軽町立望洋台中学校／小樽市立立北村中学校／小樽市立松ヶ枝中学校／音更町立緑南中学校／帯広市立川西中学校／上富良野町立上富良野中学校／

神恵内村立神恵内中学校／北広島市立大曲中学校／北見市立北中学校／北見市立光西中学校／北見市立東陵中学校／清里町立清里中学校／釧路市立共栄中学校／釧路市立鳥取中学校／釧路町立昆布森中学校／札幌市立あいの里東中学校／札幌市立内中学校／札幌市立北野中学校／札幌市立栄南中学校／札幌市立月寒中学校／札幌市立稲穂中学校／札幌市立八軒中学校／札幌市立平岡緑中学校／札幌市立真駒内中学校／札幌市立前田中学校／札幌市立士別中学校／札幌市立上士別中学校／札幌市立士別中学校／積丹町立美国中学校／新得町立新得中学校／伊達市立光陵中学校／千歳市立青葉中学校／千歳市立千歳中学校／当別町立西当別中学校／洞爺湖町立蛇田中学校／洞爺湖町立洞爺中学校／苫小牧市立明野中学校／苫小牧市立植苗中学校／苫小牧市立青翔中学校／豊富町立兜沼中学校／苫小牧市立和光中学校／豊富町立兜沼中学校／中頓別町立中頓別中学校／七飯町立七飯中学校／名寄市立名寄東中学校／仁木町立仁木中学校／西興部村立西興部中学校／根室市立歯舞学園／登別市立登別中学校／登別市立鷺別中学校／函館市立亀田中学校／函館市立立木中学校／函館市立本通中学校／東神楽町立東神楽中学校／富良野市立樹海中学校／富良野市立麓郷中学校／北海道教育大学附属函館中学校／幕別町立幕別中学校／真狩村立真狩中学校／室蘭市立東明中学校／立命館慶祥中学校／留萌市立港南中学校／稚内市立潮見が丘中学校／旭川実業高等学校／旭川龍谷高等学校／小樽双葉高等学校／帯広北高等学校／とわの森三愛高等学校／北海道旭川工業高等学校／北海道小樽未来創造高等学校／北海道釧路工業高等学校／北海道釧路湖陵高等学校(定時制)／北海道商業高等学校／北海道札幌白石高等学校／北海道弟子屈高等学校／北海道富良野高等学校／北海道小平高等養護学校／北海道新篠津高等養護学校／北海道手稲養護学校／北海道手稲養護学校三角山分校／北海道函館五稜郭支援学校／北海道函館聾学校／国語専門塾みがく

第15回 北海道小・中・高生短歌コンテスト 【講評】

歌人（公財）北海道文学館評議員 阿知良 光治

今回は、中学生の応募者が大幅に増えて、昨年より一、四一三名多い七、五四五名で過去最多の応募数でした。応募した学校は一四〇校で、特別支援学校が六校あり、学習塾からの応募もありました。第一次審査通過者は三八〇名、第二次審査に残ったのは二五〇名、そのうち入選は八六名でした。審査に当たる私たちは「今年も素晴らしい作品に出合えますように」と期待しながら慎重に審査に当たりました。入選以上の作品は厳しい審査を通過した優秀な作品です。

どの作品も、それぞれの学年の発達段階にふさわしいもので、学校生活の様子などが素直にうたわれており好感が持てました。特に特別賞に輝いた作品はそれぞれ工夫の跡が見られ独自の見方や考え方が際立っており、素晴らしい作品でした。

そもそも短歌は日本伝統の定型詩と言われ、千年以上前の『万葉集』にも多く詠よまれ、現在まで受け継がれています。特に「五・七・五・七・七」の三十一文字のリズムが特徴です。そうした基本を大切にして、日々の暮らしの中で見たことや感じたことを飾らずにうたと、よい作品が生まれます。その上で自分なりの表現の工夫をすると、さらに良い作品になります。「短歌は人を表す」と言います。これからも自分らしい表現を工夫し、自分にしかうたえない素晴らしい作品を期待しています。入選された皆さん、おめでとうございます。

※掲載は部門別に学校名の五十音順。同学校内では学年順、同学年内では氏名の五十音順。

〔各作品の講評担当〕

特別賞／優秀賞・佳作・入選（小学生の部）

阿知良光治

優秀賞・佳作・入選（中学生・高校生の部）

大塚 亜希

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

憂鬱を高みの見物赤とんぼ「前へ進め。」とハンドルにとまる

岩見沢市立光陵中学校 3年 大裕 晴正

【講評】現在のコロナ禍による停滞、あるいは高校受験に対する不安を暗示しているのであろうか。作者の憂鬱を赤とんぼが高みの見物をしていると擬人化し、「前へ進め。」とうながしているというのである。実に巧みな表現で、深いよみが感じられる作品である。

《特別賞 北海道立文学館賞》

青空に映^ばえる富良野のラベンダーそつと外したマスク片手に

札幌市立田山小学校 6年 矢野 七雨

【講評】ラベンダーを見た感動を「青空に映える」と表現し、「美しい」とか「素晴らしい」とかの言葉を使わずに、マスクをそつと外すという作者の行動で表したのである。これは短歌を作るときの基本で、出来るだけそうした表現を使わずに感動を表すことが望ましいとされている。

《特別賞 北海道歌人会賞》

青春のあしたはきつと晴れますか教科書をめくり白秋に聞く

北海道釧路商業高等学校 2年 只野 結

【講評】新鮮な感じ方が魅力的な作品である。これから先の自分の青春が輝かしいものであるようにとの願望を北原白秋に聞くとするのである。きつと国語の授業で白秋の詩か短歌を学んだのである。う。未来に希望を持たせるようなそんな詩か短歌だったのではなからうか。

《特別賞 北海道新聞社賞》

赤とんぼくさととまるよつかまえろそつとってねにげちやうからね

岩内町立岩内西小学校 3年 町 彩音

【講評】自分の思いをそのまま言葉にしたもので、素直な表現で好感が持てる。「トンボを捕まえて」と友達に頼んだのであろう。トンボを捕まえる動作が生き生きとうたわれ、「にげちやうからね」の結句には思わずうなずいてしまうかわいらしさがある。

《優秀賞》

小学一〜三年生の部

かきごおりぶるうはわいをまわりにねかけておいしいふじさんになる

旭川市立豊岡小学校 2年 鎌田 湊士

【講評】かき氷の周りに「ブルーハワイ」というシロップを掛けたのであろう。それを「おいしいふじさん」にたとえたところは作者の発見で微笑ましい。子どもの素直な心を表現した一首になっている。

おばあちゃんいえのはたけはにじみたいアスパラ・イチゴ・ナス・ブルーベリー

札幌市立西園小学校 1年 廣部 琴

【講評】祖母の家の畑にある色とりどりの野菜を見ての作品。それを「にじみたい」と感じたのである。下の句に「アスパラ・イチゴ・ナス・ブルーベリー」と並べたのが効果的である。

アスファルト照らす日差しでゆらゆらと見える影には夏だけの色

札幌市立琴似小学校 6年 遠田 真緒

【講評】夏の直射日光がアスファルトを照らし陽炎のようにゆらゆらと見えたのである。それを「夏だけの色」と表現した個性的な見方が素晴らしい。高学年らしい雰囲気のある作品である。

いつもよりうまいやきとりキャンプ場音の味付けセミの鳴き声

札幌市立発寒西小学校 4年 今野 充翔

【講評】キャンプなど野外で大勢で食べる食事はおいしいものであるが、「セミの鳴き声」が味付けになっていて「いつもよりうまい」と捉えたところが斬新で優れているところである。

ゆかた着て屋台回って帰りぎわふたりの背景打ち上げ花火

小樽市立松ヶ枝中学校 2年 吉田名菜花

【講評】友人または恋人とのお祭りでの思い出を動きのある映像として表現できている。背後で上がった打ち上げ花火を「背景」としたことで、思い出の最後のシーンがストップモーションで描かれたような、鮮やかな一首になった。

外に出たい買い物行きたい遊びたい課題で埋まる私の机

音更町立緑南中学校 2年 三井田莉子

【講評】コロナ禍によるステイホームの日々。学校にすら行けない期間のあった学生にはなおさらストレスの溜まるものだったろう。登校できないために、課題も多く出たという。「いま」の学生生活をリズミカルにうたっている。

風も無く灼熱地獄の体育館汗を飛ばしてシャトル追う夏

帯広北高等学校 2年 池内 幹太

【講評】バドミントンの練習の場面であることが伝わる工夫がされている。風の影響を受けやすいため窓を開けられないスポーツ。真夏日の多い最近の夏はまさに「灼熱地獄」という表現がふさわしい。躍動感のある表現もよかった。

炎天下ホース片手に作り出す季節限定手作りの虹

北海道小樽未来創造高等学校 2年 宮島 朱音

【講評】「手作りの虹」という表現に詩情と発見があり、作者たちの暑い夏を楽しむ姿が見えるかのようにある。夏だけの楽しみであることと、ホースで水を撒くさまが具体的に描かれていて、一首に説得力を与えている。

《佳作》

小学一～三年生の部

ばあちゃんとおすしやさんだぼくサーモンばあちゃんマグロ二人でえがお

旭川市立豊岡小学校 2年 今野 蓮斗

【講評】祖母と二人でお寿司屋さんに行った様子を楽しく表現している。特に「ぼくサーモンばあちゃんマグロ」の具体が効いている。二人の楽しい会話が聞こえてきそうである。

ずこうすきおよぐのだいすきじはにがてみんなちがっていいんだよね

網走市立網走小学校 1年 吉田 美里

【講評】人にはそれぞれ得意なものと不得意なものがあるということ子どもらしく表現している。金子みすゞの詩に「みんなちがってみんないい」とあるように、上の句の「ずこうすきおよぐのだいすきじはにがて」にその子らしさが出ていて好感が持てる。

だいすきなおまつりはなびみずあそびことしはコロナざんねんだなあ

北広島市立東部小学校 1年 多門 花佳

【講評】心待ちにしていたお祭りがコロナにより中止になったことへの残念な気持ちを素直に表現している。「はなびみずあそび」と具体的なものを出したのがよかった。

ヒナの声かあさんをよぶいつまでももう日がくれてもまだないている

札幌市立澄川南小学校 3年 宮森 佑輝

【講評】小鳥のひなが巣の中で母親を呼んでいる。その声日が暮れてからも聞こえるという。「まだないている」に小鳥のひなを心配している思いが子どもらしく素直に表現されて好感を持った。

うえみれば広がる青に咲いていたのびのび大きく純白の花

釧路市立清明小学校 6年 加藤 瑛月

【講評】上空に広がる青い空。その中に大きく漂う白い雲を「純白の花」にたとえたのであろう。色の対比が鮮明で「のびのび大きく」とうたい雄大な空をうまく表現している。

見わたせば青い夏空白い雲ゆれる草原ゆれるひまわり

別海町立別海中央小学校 4年 古里 絵鈴

【講評】晴れ渡った青い夏空に浮かぶ白い雲、その下に広がる草原のひまわり。「ゆれる草原ゆれる向日葵」と「ゆれる」の繰り返し返しが効いている。自然の豊かさを感じさせるスケールの大きな作品である。

弟の産まれる知らせ心待ち泣き声聞こえ笑顔あふれる

室蘭市立みなと小学校 6年 磯部 光希

【講評】心待ちにしていた弟の誕生。新しく増えた家族への喜びが伝わってくる。作者は弟が欲しかったのである。生まれた瞬間の赤ちゃんの声が聞こえてきそうな臨場感がある。

大会後ふとんにこもるその僕にそつとのつかる大きな父の手

札幌市立平岸中学校 2年 服部 健吾

【講評】大会では不本意な結果だったであろうことが、説明されなくとも「僕」の描写から伝わってくる。その「僕」をさりげなくはげましてくれる父の存在の大きさと優しさが描かれていて、心のあたたかくなる一首だった。

エレベーターエスカレーターじゃつまらない僕の人生には階段がいい

千歳市立千歳中学校 2年 奥村 拓世

【講評】楽な方に流れがちな人生だけれど、あえて楽ではない方へ進みたいという積極的な姿勢をうたっている。「楽」を「エレベーターエスカレーター」、「苦」を「階段」とした表現の工夫もよく、また、ルビも効果的に使えている。

「大丈夫一人じゃないよここにいる」その一言に君が滲んだ

千歳市立千歳中学校 2年 本間ゆり子

【講評】作者にとつての「君」の存在の大きさが「君」の言葉を具体的に掲出したことで強くうたえられている。泣いたことを「泣いた」と表現せず「君が滲んだ」とした点もよく考えられていて、一首に詩情を与えている。

タブレット越しの花火じゃ物足りない火薬の匂いと君のぬくもり

北海道教育大学附属旭川中学校 3年 上野 未悠

【講評】ステイホームで様々なものが画面越しに行えるようになった。でも、そこには「匂い」と「ぬくもり」がない、という作者の気づきが、「花火」というモチーフを通して表現され、寂しさを漂わせる一首になっている。

おじさんに席ゆずられし十二歳部活の夏の夕焼け

北海道函館聾学校中学校 1年 山田リノア

【講評】下の句の「の」の畳みかけで気持ちいいリズムが生まれている。十二歳で席をゆずられたということに戸惑いがあつたかもしれない。けれども車外に広がる夏の夕焼けから作者の前向きな気持ちを読み取ることができる。

綾取りで子が絡ませて直す母十五の糸は絡まったまま

北海道小樽未来創造高等学校 3年 今野 渚

【講評】多感な十五歳の悩みの渦中にいる自分が、絡まった綾取りの糸を母に直してもらった幼き日のことを思い出している一首。自分目線ではなく、「子」と「母」と表現したことで、往事を外から眺めている寂しさも感じさせる。

色褪せた分厚いアルバムめくったら今も鮮明あの日の匂い

北海道釧路商業高等学校 1年 比内 月菜

【講評】写真はデータで持つことが多い今、「分厚いアルバム」というのは卒業アルバムだろう。自分たちの幼かった頃の記憶を鮮明にさせるアルバムの存在感を感じる。アルバムは色褪せているが、記憶は鮮明に匂うという対比もうまい。

制服で祖父の遺影を見上げれば後輩だなど笑う気がした

北海道札幌工業高等学校 3年 堤 友里

【講評】祖父も通った高校に進学し、同じ制服を着る。祖父の笑い声を感じ取る作者にとって、祖父との思い出はとても大きかったのだろうと想像させる。作者の姿と内面、祖父との関係が巧みに過不足なく描かれている。

よるがきたたのしいおまつりなにしようヨーヨーつりでママとたいせん

旭川市立豊岡小学校 2年 斉藤 僚琉

【講評】家族で楽しみにしていた夜祭りに「なにしよう」と考える様子が三句切れでうまく表現されている。「ヨーヨーつりでママとたいせん」と自分の思いをまっすぐに生き生きと表現して実感がある。

家の前もみじがとんだきれいだなわたしもいつしよにとんでみたいな

岩内町立岩内西小学校 3年 川本 月緋

【講評】真つ赤な紅葉が家の前を飛んでいる。自分も一緒に飛んでみたいということばにファンタジックな世界が広がる。こうした子どもの空想を大切にしたい一首である。

ふうりんがチリチリなったなつがくるかきごおりたべああなつがくる

岩内町立岩内西小学校 3年 木森 百花

【講評】風鈴の音と、かき氷を対比して「なつがくる」を繰り返すことでそれが強調されて効果的である。作者の鋭い感性が感じられて趣がある。

なつやすみ朝からドリルおわらせてコロナのせいでおうちでゲーム

岩内町立岩内西小学校 3年 森 太偉俄

【講評】今年の夏休みはコロナにより短縮されたが、子どもにとつての夏休みは楽しみな日々のはずである。しかし「朝からドリル」のあとほんとうは外で遊びたいのに「おうちでゲーム」と外で遊べない残念さがよく出ている。

みずのおとたきのちかくでこいはねるこころにのこるきれいなうろこ

札幌市立澄川南小学校 3年 大野壮太郎

【講評】印象的な作品である。水の音に気がつくことと鯉がはねたのであろう。その鯉のうろこが強く心に残ったのである。錦鯉なのであろうか「きれいな」と言わずに鮮明な色が表現されるともつと良かったと思う。

海の中お魚いっぱいおよいでるきつと家族でおさん歩中

札幌市立澄川南小学校 3年 久保いろは

【講評】海の中にはたくさんのお魚が泳いでいるが、それを「家族でおさん歩中」と捉えたところが微笑ましい。こうした子どもの感性を大切にしたいものである。

おいしゃさんみんなのためにウイルスとたたかってくれてかんしゃのきもち

札幌市立澄川南小学校 3年 安田 和史

【講評】コロナウイルスの蔓延で医師が奮闘していることを伝え聞いたのであろう。やや報告的であるが、医師に対する感謝の気持ちを言いたかったのである。

あちこちにはなくちなしの変な奴地球せいふくマスク星人

札幌市立西園小学校 3年 富樫梨衣沙

【講評】コロナウイルスの予防の為にマスクをしている人々を「マスク星人」と捉えたところが斬新である。それが地球を征服するという、物語の世界に入り込んだように表現しているところがこの作品をユニークなものとしている。

じゃぶじゃぶとあつさふつとぶ川あそびちっちゃい魚とおにごっこみたい

札幌市立藤の沢小学校 2年 陣内 結子

【講評】初句のオノマトペ（擬音語）が「あつさふつとぶ川あそび」を強調して効果的である。さらに「ちっちゃい魚とおにごっこみたい」の転換が面白い。

はつぽんにつくつてみたよおりくぜんおいしいかいとおはなしする

北海道教育大学附属札幌小学校 3年 鈴木 千智

【講評】自分で作った仏様への御霊供膳（おりくぜん）。おじいちゃんかおばあちゃんへであろうか「おいしいかい」と声を掛けるやさしさが感じられて好感が持てる。

そろばんの試験に受かったうれしさが空いっぱいに広がっていく

小樽市立奥沢小学校 4年 伊吹 梓

【講評】そろばんの試験に受かった喜びがストレートに表現されている。下の句まで「空いっぱいに広がってゆく」と最後まで一気によんだのが成功している。

大好きです保育園からこれまでもずっと変わらぬ私の初恋

小樽市立奥沢小学校 4年 岩戸 美織

【講評】保育園からずっと一緒だった好きな子への思いが「ずっと変わらぬ」と、素直にうたわれていて微笑ましい初恋の歌である。下の句にその一途さが十分に表現されている。

どんとあり木々達育てるも岩山絵に表わせない美しい山

札幌市立幌南小学校 6年 鈴木 音彩

【講評】藻岩山のどっしりとした姿を表現して力強い。「絵に表わせない」と見たところがこの作品のポイントである。藻岩山に対する並々ならぬ思いが感じられる。

ハエがいる気づけばぼくもハエになるひとのともだちもういない

札幌市立幌南小学校 6年 中 季子

【講評】自分がハエになったと表現した斬新な作品である。友達がいらない寂しさを「ひとのともだちもういない」とハエになった自分から見たユニークな作品としてまとめている。

目が覚めて耳をすますとせみのこえなつかしき音おばあちゃん家

札幌市立幌南小学校 6年 和田 詩織

【講評】夏休みのものである。祖母の家に泊まった朝の様子をうたったものである。最近、都会では聞くことが出来るようになったセミの声をなつかしく思った実感のある作品である。結句を「おばあちゃんの家」と、「の」を入れるとよかった。

夏祭り舌青くなる冷たさに友とはしゃいで熱するキズナ

札幌市立幌北小学校 4年 間島 仁子

【講評】夏祭りに友達とかき氷を食べたのであろう。舌が青くなったのを見せ合ってはしゃぐ様子が見えるようである。やや背伸びした「熱するキズナ」がこの作品の見どころである。

諏訪神社友だちいっしょにおみこしだ通る道から虫の鳴く声

札幌市立幌北小学校 4年 松永 小瑤

【講評】諏訪神社の秋祭りに友達とおみこしを担いだ様子がうたわれている。その行く道に虫の声がしたというのである。季節感を感じる作品になっている。

夏休み長かったころ思い出す今年はみじかい10日間の休み

札幌市立札幌北小学校 4年 佐藤 穂和

【講評】今年はコロナのためにたった十日間の短い夏休みであった。長かったころを懐かしんで、感じたままを素直に表現して実感がある。

足ふるふるサヨナラチャンス打席にはぼくが立ってる死ぬ気で打つぞ

札幌市立札幌北小学校 4年 水木 昊士朗

【講評】少年野球のひとつまである。サヨナラのチャンスに打席が回ってきたのである。初句の「足ふるふる」に緊迫した様子が伝わってくる。「死ぬ気で打つぞ」の結句が力強い。

家の中会話がずれて笑いあうしみじみ思うやっぱり家族

札幌市立篠路小学校 6年 家崎 花鈴

【講評】会話がずれてもお互いを許し合える家族のよさが伝わってきて心地よい。下の句の「やっぱり家族」は心の底から発せられた言葉で絆の深さを感じられる。

すなはまにひとつちいさなしろい貝貝の中には夏の思い出

札幌市立篠路小学校 6年 櫻岡 春音

【講評】砂浜に落ちていた白い貝殻。その中には夏の思い出がまつまっているという発想に感銘した。高学年らしい口マンチックな作品でセンスの良さが光る。

キャンプの夜たき火をかこみあたためる家族みんなの心と体

札幌市立澄川南小学校 4年 三上 惺之

【講評】家族そろってのキャンプ、夜のたき火を囲んでの団らんの時。そのたき火の火が家族の心と体を温めるといふ感受性豊かな作品である。

いよいよだ再開された登校日教室入るなつかしい声

札幌市立福移小学校 4年 新倉 咲音

【講評】コロナの影響でしばらく休校になっていた学校が再開されたのである。友達に会える喜びが初句の「いよいよだ」に凝縮している。臨場感のある下の句でさらに友達の声も聞こえてきそうである。

たくさんさんの願いがつまった短冊に星降りそそぐ七夕の夜

札幌市立藤の沢小学校 6年 細田 梨央

【講評】みんなの願いを書いた短冊に星が降り注いでいるという何ともロマンチックな表現である。結句の「七夕の夜」まで一気に読み下したところもよい。夢を感じさせてくれる一首であった。

非常口グリーンマンが逃げている勉強イヤダぼくも逃げたい

札幌市立北光小学校 6年 尾崎 雄大

【講評】非常口を表示するマークの駆けている人の形を「グリーンマンが逃げている」と表現した斬新な作品で「勉強イヤダぼくも逃げたい」と発想を飛ばしたところがユニークである。

暑い夏青い空から天気雨ソーダの中を泳ぐみたいだ

札幌市立元町小学校 5年 尾高 佑宇

【講評】明るい夏の輝く中に降る「天気雨」からの発想で「ソーダの中を泳ぐみたいだ」と表現したところがこの作品のポイントである。大人にはできない見方で光る一首だ。

名づけ親私の名前実は兄化石が好きでこはくになった

札幌市立米里小学校 5年 佐藤こはく

【講評】化石の好きな兄が名付けた「こはく」という自分の名前を一首にしている新鮮な作品である。作者はこの自分の名前をきつと気に入っているのである。

夏空をながめっていると流れ星ねがいきれないねがいごと

中頓別町立中頓別小学校 4年 佐藤 葉那

【講評】流れ星に願いを唱えるが、作者は願いきれないほどの願い事があるというのである。夢の多い年代でロマンを感じさせる作品である。結句を字足らずにせず「私のねがい」と七音で締めるとよかった。

体育の千メートルを走り切り「カラン」とならした麦茶の氷

旭川市立桜岡中学校 2年 上村 南惺

【講評】千メートルを走り切った後の麦茶のおいしき。それだけではなく、そこに入っている氷の音に着目した点、それをオノマトペで表現した点がとても良い。快い音だったのだろう。

勝ちとった全力シュート^{ワッ}1ゴール感情あふれつき上げた拳

旭川市立緑が丘中学校 2年 田村 裕音

【講評】ワンゴールにそれだけの思いが込められていることから、接戦であったことが想像できる。拳をつき上げたという描写により、均衡が破れた一瞬がうまく切り取られている。

君たちがあたえてくれた優しさは君たち自身がうけとる宝

小樽市立北陵中学校 2年 稲宮 勇

【講評】優しさをあたえることと宝をうけとることは対称的なようだけれども、同じであるという気づきが詩情のある言葉で表現されている。「君たち」の繰り返しもいいリズムを生んでいる。

指先になつかしい風ふいてきた行つてきますと手ぶくろをはく

上富良野町立上富良野中学校 2年 長谷川 葉

【講評】冬が来たことにまず指先が気づくという視点がこまやか。数か月ぶりの冷たい風を懐かしむ作者は、冬が好きなのだろう。「手袋をはく」という方言のもつ地域性もよく生きている。

一五〇こえた身長うれしくて並ぶ友達見上げて

釧路市立共栄中学校 2年 澤田 葵

【講評】一五〇センチをこえるのは、ひとつの目標だったのだろう。周りと比べるとまだまだだが、着実に伸びている喜びにあふれている。数字から始めることで、意外性をもたらしただ点もよい。

快晴の空に青葉の香を届け風吹き抜けるトラックに立つ

札幌市立青葉中学校 2年 椿原 春香

【講評】読んでいて風を感じるような心地よい一首。「青葉」ということばからは季節感と愛校心を感じた。これから走り出すのだろうか作者のさわやかな気分がよく伝わってくる。

みんなとのしばらくぶりの大笑いみんなで笑う世界で笑う

札幌市立北野中学校 2年 竹林 信

【講評】下の句は、「みんなで笑う世界」と繋がるのだろう。その世界がコロナ禍によって一時的に失われてしまっていたことを、みんなで大笑いすることで吹き飛ばすかのようにある。

カラン、ピキツ、ドボドボ、ゴクツ 喉からフー テーブルの上の夏の合奏

札幌市立琴似中学校 1年 林 秀一郎

【講評】「喉から」という言葉に作者の実感があり、作者自身が冷たい飲み物を飲んでいることを示している。オノマトペを多用することで合奏の雰囲気を出した工夫も成功している。

「密です」と言われ気がつく人肌のぬくもり恋しく終息願う

札幌市立澄川中学校 2年 天野 滯

【講評】休校によるさびしい期間が終わり友人に会えるようになって「密です」という言葉でそのぬくもりを得られなくなる。そんな悲しい現状の終息を願う気持ちがよく表れている。

マスクして向かい合わずに斜め席密を防いで目と目でお喋り

札幌市立澄川中学校 2年 田中 佑奈

【講評】どんな状況でも、視線だけで、意思を伝えあうことはできるという気づきを感じられる歌である。コロナ禍の中だからこそ気づけることもあるということがこの歌が示している。

夕立の打ちつける音心地よく染められていく乾いた道路

札幌市立澄川中学校 2年 山田 脩平

【講評】暑い日にざっと降り、涼を連れてくる夕立。強く地面を打つ音が聞こえてくるようで、音とともに染まっていく道路の映像もよく描かれている。優れた観察力を感じ取れる一首。

登校日二か月ぶりに会う仲間マスク越しでも分かる喜び

札幌市立伏見中学校 1年 山本 果凜

【講評】マスクで表情が隠れていても仲間の喜びはよくわかる。二か月は長いですが、その期間を経ても繋がっている友
情が感じられる。リズムがよく、弾むような気持ち伝わってくる。

指先をつゆ草で染める夏休み朝の体操帰りの楽しみ

札幌聖心女子学院中学校 1年 都筑 暖和

【講評】すこし不思議な感覚をうたった短歌だが、絵本の『きつねの窓』のエピソードを踏まえているのだろうか。露
草のあざやかな青と朝のさわやかな空気を感ずる一首である。

好きなのに趣味の違いをうめられずむなしく見つめる仮面ライダー

札幌日本大学中学校 1年 大場 悠貴

【講評】仮面ライダーが好きだという人を好きになってしまい、仮面ライダーを見つめる。好きなのに分かり合えな
い部分があることに気づいた、思春期ならではの気持ちがいまこめられている。

夏祭り心がおどるゆかた着て打ち上げ花火君とみた夜

伊達市立光陵中学校 2年 本所くるみ

【講評】夏のお祭りの景を切り取り、自分と「君」を中心に据えてうたっている。散文的になりがちだが、心が
おどるといふ擬人化と、結句の体言止めが詩情をもたらしている。

朝起きて顔を洗って飯食って占い十二位「いい天気だな。」

中頓別町立中頓別中学校 2年 宗像 晃大

【講評】毎朝のルーティンの中に朝の情報番組の星占いを見ることが入っているのだろう。十二位であっても天気
がいいから気にしない、という雰囲気、オリジナリティとユーモアがある。

水しぶきタイヤがゆつくり避けてゆくそんな優しき心にしみる

七飯町立七飯中学校 2年 石岡 峻和

【講評】水たまりの上を、しぶきをあげてゆく車もあれば、速度を落として避けて通ってくれる車もある。日常の中の小さな優しさに目を向けていて、着眼点にオリジナリティがある一首。

僕の日を寄せて離さぬその色は波にもまれぬ君の肌かな

仁木町立仁木中学校 2年 久保 日和

【講評】「君の肌」の色の魅力を詩的に表現している。結句までの形容が「君の肌」にかかっていく作りで、強調すべき「肌」の色を効果的に表しており読者にその色を想像させてくれる。

大空をもし飛べたならどこ行こう地球儀眺めふと考える

登別市立鷺別中学校 2年 江利川由菜

【講評】行こうと思えば飛行機でいきたいの場所には行ける。だが、そうした時代に空からの視点で地球儀を眺め、「もし飛べたなら」という空想に至ったのが詩的であり新鮮な発見である。

晴れた空セミの鳴く声光る海安らぐ乙部祖母のふるさと

函館市立亀田中学校 2年 大國 結愛

【講評】上の句の畳みかけからどこをとっても素晴らしい故郷であることが伝わってくる。乙部という固有名詞もよく、また、乙部と祖母、両方に安らぎを感じていることが伝わってくる。

電話鳴り退院したよとやさしい声涙こぼれるうれしいしよっぱさ

室蘭市立東明中学校 2年 西田 琴音

【講評】退院報告を電話で聞いたということは、一緒に暮らしていない間柄かもしれない。この知らせを聞いて涙をぬぐうことも忘れるほど喜んだことが、その涙のしよっぱさから伝わる。

清々しピッチに広がる雄たけびよ奮い立つ様戦士の背中

帯広北高等学校 3年 竹内 悠真

【講評】初句切れがうまく響いて、全体をまとめていて巧み。ピッチの後方にいる作者が味方の背と声に頼もしさを感じている。ピッチに立ったからこそよめる、臨場感あふれる一首。

小樽行き窓はきらめく日本海揺れる電車と友と私と

市立札幌開成中等教育学校 4年 石川 華

【講評】動詞が少なく、シンプルにまとめられている。下の句の畳みかけもいいリズムを生んでいる。日本海から電車、そして友と私、と、視点が絞られ、最後に自分に帰結する点がうまい。

幼き日手をとり歩いたあの場所で車イス押し今歩きゆく

北星学園大学附属高等学校 2年 岡本 嵩弘

【講評】上の句は「幼き日」、「あの場所」と、抽象的・曖昧であるが、下の句に「車イス」を描くことによって、映像と時間の経過が具体的な現実味をもってくるという作りが巧みである。

ピロリンと知らない通知は鳴るけれど待っても鳴らない君のライン

北海道釧路商業高等学校 1年 波平 奏歌

【講評】「君」以外の友人の連絡が来ているのかもしれない。だが、連絡を心待ちにしている「君」の連絡を告げる音だけが鳴らない。その表現が「君」の特別感をうまく伝えている。

遠い距離マスクで迎えた別れの日次会う日には近くで笑顔

北海道釧路商業高等学校 1年 三谷 華生

【講評】コロナ禍で、学生生活を思うように送れなかった非日常感を、距離をうたうことでうまく表現している。希望を感じられる下の句に続くことで、前向きな気持ちにさせてくれる一首。

そよそよと風にふかれる帰り道どこからかくるカレーのにおい

北海道釧路商業高等学校 1年 村山 七海

【講評】カ音の繰り返しによってリズムのいい歌になっている点が巧み。カレーのにおいをうたうことで読者の嗅覚にうったえているが、それだけでなく、聴覚にも心地よさを与えている。

あたりまえその生活が幸せとなくなつて知る母の偉大さ

北海道釧路商業高等学校 2年 神田 桃果

【講評】母親のいる生活を当たり前と想っていたが、母のいない暮らしのなかでその存在の大きさを体感している作者。「偉大」というのは強い言葉だが、実感を込めて使うことができている。

教科書に書かれた君への二文字を声に出せずに通り過ぎた春

北海道札幌白石高等学校 2年 松谷 花果

【講評】「書かれた」という表現から、「君への二文字」がかつての自分が書いたものであることがわかる。ほろ苦い思い出となった二文字を懐かしく読み返す様子が伝わってくる。

来ることかもしれないへんだからといつもより写真にのこしたはこだての町

北海道富良野高等学校 1年 池添 遥

【講評】通常であれば、旅先の景色や食べ物などに心動かされて記念に写真を撮るのだろうが、たくさん写真撮る理由が「来ることかもしれないへんだから」という点なのがユニークである。

髪をきり過去の自分とお別れださらば私の思い出の人

北海道富良野高等学校 1年 木下 凜

【講評】思い切って髪を切ることで、想い人を忘れたい、という短歌や発想は多いが、「思い出の人」ということで、想い人がすでに過去の存在になっているという点が独創性がある。